



技術評価書

- ・技術名称 建築鉄骨製作構法「WAWO構法」
- ・技術評価申請者 (株)アークリエイト 代表取締役 内田昌克
- ・技術概要 本構法は、冷間成形角形鋼管等を用いた鉄骨柱とH形断面梁との接合部に関する溶接工法である。柱面からのダイアフラムの突出をなくし、通常の工法で用いられているスカラップ、裏当金、エンドタブを用いず、溶接量を低減させる特殊な工法である。
- ・開発趣旨 一般的な柱梁接合部で使用しているダイアフラムの柱からの突出、スカラップ、裏当金、エンドタブ等を使わずに梁端部の溶接を可能とすることで、柱梁溶接部における製作工数を低減させることを目的としている。

当協会の建築技術評価実施要領に基づき、上記の評価対象技術について、下記の通り評価する。

2010年3月31日

建築鉄骨構造技術支援協会
会長 田中淳夫



記

評価方法 申請者から提出された下記の資料および各種の実験資料並びに実構造物への適用例についての立会検査により本構法の技術評価を行った。

資料1 本構法に関する概要、設計要領、製作要領、品質管理要領、運用体制

2 WAWO構法実績リスト

資料1には、本構法の概要、本構法を適用した柱梁接合部に関する設計要領、鉄骨製作工場における製作要領、品質管理要領および本構法に関する運用体制が示されている。

資料2には、本構法を適用した建築物の施工実績がまとめられている。

評価内容 本構法を建築鉄骨構造物に適用する場合には、申請者と構造設計者、申請者と鉄骨製作業者がそれぞれの担当範囲に関して必要かつ十分な打合わせを行って意思の疎通をはかり、構造設計者と鉄骨製作業者が本構法の特異な点を十分理解して構造物の設計並びに部材製作にあたるのが基本である。その点が間違いなく行われた場合には、本構法を建築の鉄骨構造物に適用する上で構造品質上大きな問題は生じないものと判断される。当協会が本構法の技術評価を行った内容は、以上の通りであり、個々の構造物に本構法が適用された場合の具体的な構造品質を保証するものではない。

建築構造技術評価委員会委員

- | | | |
|-----|------|-------------------------------------|
| 委員長 | 田中淳夫 | 宇都宮大学 名誉教授 |
| 委員 | 青木敏三 | 片山ストラテック(株)東京工場
品質管理部 部長 |
| | 伊藤 優 | (株)日本設計 常務執行役員 構造設計群長 |
| | 内田三雄 | 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)
シニアエンジニア |
| | 小橋 学 | (株)久米設計 顧問 |
| | 羽石良一 | (株)さくら設計事務所 所長 |



WAWO構法運用のフロー

